

鹿児島県

シニア災害ボランティアセミナー開催報告

災害に強い地域づくり

過去の災害に学び、次世代に伝える

平成26年1月21日（火）、鹿児島県の県庁2階講堂において、被災地域における活動とそれを支えるボランティアの役割についての理解を深めることを目的に、鹿児島県と当協会主催による「シニア災害ボランティアセミナー」が開催されました。

冒頭に、主催者を代表して、当協会の廿日岩信次常務理事、鹿児島県の稲原浩総務部長が挨拶し、続いて、NPO法人中越防災フロンティアの青木勝相談役と、鹿児島県社会福祉協議会ボランティアセンターの日高耕一所長による講演が行われました。なお、講演の概要はつぎの通りです。

講演1

13:20～14:50

中越大地震からの報告
～帰ろう山古志へ～

NPO法人中越防災フロンティア相談役

青木勝氏

1 山古志の姿

・山古志の特性

■「棚田」（山古志の象徴、総農家数389戸）■「雪」（豪雪地帯であり、平年3mの積雪を記録）■「錦鯉」（錦鯉発祥

2 地震による被害状況

の地、経営対数・184団体）■「闘牛」（来場者・年間4万人）■「中山隧道」（日

- ・人的被害（死者2名、負傷者26名）
- ・生活基盤の被害（上水道が全壊、通信は共同アンテナ12基全減、ドコモ鉄塔2基損壊）
- ・産業の被害
 - 農業：農地の埋没、流出525箇所
 - 林業：災害（林地28箇所、林道16箇所）
 - 錦鯉：死亡（親鯉2000匹、当才16万匹）、越冬施設（50棟損壊）
 - 畜産：死亡は成畜88頭、牛舎12棟損壊
- ・住宅被害（約40%の住宅が全壊）
- ・公共施設等の被害
- ・避難生活（仮設住宅へ562世帯入居）
- ・豪雪によるさらなる被害

3 山古志復興に向けて

●基本理念 「山の暮らし」の再生

山での生き方の復興、働き場の整備を行い、安全・安心な村の整備。

●安全・安心な村の整備

安心して暮らせる土地と住宅、アクセス道路の確保、ライフラインの復旧、情報基盤の整備、暮らしを支える公共機能の確保。

●山で自立的に暮らすためのトータルな働き場の整備

棚田での米づくり、錦鯉生産、野菜等



青木 勝

NPO法人中越防災フロンティア相談役

新潟県生まれ。1974年より山古志村役場勤務、主に中山間地対策、過疎対策を担当。2004年の新潟県中越地震では山古志村企画課長として震災対応し、復興プラン「帰ろう 山古志へ」も策定した。10年3月に退職し、同年4月からNPO法人中越防災フロンティア副理事長。現在は相談役。

の生産基盤再生、地域産業の連鎖による就労の場の創出。

●山古志の生き方の復興

生涯現役で暮らせる地域社会づくり。

（集落自治、闘牛の復活、錦鯉産業の再生）

●新しい山の姿の創造

新しい山の姿は、伝統的な地域での生き方。

●山の暮らしの価値

過疎対策等により生活環境は平準化、トータルに暮らす暮らし方（小さな生業の積み重ね）、豊かで安全な山の暮らしを都市に開放。

以上のように、はじめに山古志村での特性を話され、中越地震による被害状況が説明されました。

また、復興活動で大切なことは、その土地に住んでいた人たちが再び住めるようになることであるとのことをお話をいただきました。

そして、地域づくりとして、生涯その土地で生活ができるような仕組みづくりのために、小さな生業の連鎖でできる地域経済（棚田だけではなく、色々な収入を合算して生



活を維持する) やトータルに情報発信することが重要であることを話されました。

講演2

15:00~16:30

**シニアボランティア活動の普及と
災害時における皆さんへの期待**
被災者が1日も早く、普通の日常を取り戻していくために

鹿児島県社会福祉協議会

ボランティアセンター所長 日高耕一氏

1 プロローグ

●東日本大震災被災地支援録

実際に東日本大震災が発生後、日高講師のご家族が支援活動をされた状況や被災地のボランティア活動の現状の紹介がありました。

●支援活動地域

- ・福島県郡山市(看護支援)
- ・宮城県南三陸町(ボランティア)
- ・福島県田村市(避難所支援)

2 シニアとボランティア活動編

【シニア層とボランティア】

ボランティアの原点は「人が困っているときに、勇気を持って声をかけて、手を差し伸べてあげる。相手のために自分から進んでやる。それが、自分の喜びにつながる」

●60歳以上の高齢者のボランティア活動への関心

平成21年の内閣府の調査によると、「積極的に参加したい(男性11・8%、女性8・4%)」「できるだけ参加したい(男性22・8%、女性15・5%)」であり、

男性では関心がある方が3割もいるという結果だった。

また、世界各国との比較においても、日本の高齢者はボランティアに非常に関心が高いことがいえる。

●シニア・シルバー世代とボランティア活動

昔は、ボランティアを受ける側というイメージがあつたが、今は社会福祉の大きな担い手。シニアがシニアを支える時代。

●シニア世代の特徴

地域に精通している方も多く、これまで蓄積してきた豊富な技術、知識、知恵を持つており、比較的多くの余暇時間を持つている。

今日の社会にとって貴重な社会資源。

●シニア世代のボランティア活動メニュー

- ①若い世代への知識の伝承・指導
- ②趣味や技術を活かした活動
- ③地域を守る点検・調査活動
- ④地域の高齢者等の孤独・孤立を防ぐ見守りや生活支援の活動



日高 耕一

鹿児島県生まれ。東京ボランティアセンターを経て、1989年より鹿児島県社会福祉協議会に勤務。新潟県中越地震、東日本大震災の発生時には、被災地の支援に駆けつけ支援を行ったほか、昨年10月の台風24号で被災した鹿児島県と論島では災害ボランティアセンターの立ち上げ支援等を行う。2012年4月より現職。

【安心して活動するために】

●市町村社会福祉協議会ボランティア・センターの紹介。

- ・ボランティア相談・登録・活動紹介
- ・ボランティア養成・研修講座の開催
- ・ボランティアの紹介・派遣

●ボランティア活動保険

3 災害ボランティア活動編

【災害とボランティア】

●いつ起こるかわからない自然災害

もしも大規模災害が起これば

↓災害ボランティアセンターの開設

●災害ボランティアセンターの役割と機能

被災地において、どういったニーズがあるのかを調べ、被災者と活動をしたい人々を結びつけ、効果的な復旧支援活動を展開させる。

●平成24年・25年の災害対応

動画での実際の映像による紹介(肝付町と与論町)

実際に活動された体験から学んだことや、シニアの方が大きな担い手となることをお話いただきました。

今回の2つの講演では、それぞれ異なった視点からお話いただきました。

本当の意味での復興、復旧とは何か、そして、シニアの方々の豊富な経験、技術、得意分野などを生かしたボランティア活動の重要性を再認識できた、大変有意義なセミナーとなりました。